

宜野湾高校の生徒達へ（1）

本県において、感染者数の増加傾向が収まらず、極めて憂慮すべき状況となっており、県教育委員会は皆さんの健康と安全を守ることを最優先に考え、県立学校の一斉臨時休校期間を5月6日まで延長することを決定しました。

本来ならば、4月から宜野湾高等学校で多くの新しい出会いや体験をし、充実した学校生活を送っているところでしょうが、これからの見通しが立たない中、不安な気持ちになるのも仕方ありません。しかし、このような状況だからこそ、宜野湾高校生の皆さんには気持ちを強く持って、過ごしてほしいと思い、皆さんへメッセージを送ります。

今、新型コロナウイルス感染拡大を受け、『ペスト』が異例の売り上げで話題になっているという。第二次大戦のただ中、『異邦人』、『シーシュポスの神話』等の作品で「不条理」の哲学を打ち出し、戦後の思想界に巨大な影響を与え続けた作家アルベール・カミュが、戦争や全体主義、大災害といった**極限状況**に人間はどう向き合い、**どう生きていくべきか**を問うた代表作である。同書について、『100 de名著 ペスト』（NHK）で、次のように紹介している。

「舞台は、突如ペストの猛威にさらされた北アフリカの港湾都市オラン市。猖獗を極めるペストの蔓延で、次々と罪なき人々が命を失っていく。その一方でオラン市は感染拡大阻止のため外界から完全に遮断。医師リウーは、友人のタルーらとともにこの極限状況に立ち向かっていくが、あらゆる試みは挫折しペストの災禍は拡大の一途をたどる。後手に回り続ける行政の対応、厳しい状況から目をそらし現実逃避を続ける人々、増え続ける死者……。『罪なき人々の死』、『災害や病気などの避けがたい苦難』、『この世にはびこる悪』等、私たちの人生は『不条理』としかいいようのない出来事に満ち溢れている。圧倒的な絶望状況の中、それでも人間の尊厳をかけて連帯し、それぞれの決意をもって闘い続ける人々。いったい**彼らを支えたものとは何だったのか？**」

番組制作者は、『ペスト』について次のように語っている。

「『ペスト』とは高校時代に出会いました。いいようのない衝撃に打ちのめされるとともに、不思議に『生きる力』や『勇気』を与えてくれた本で、何度も読み返しました。信じていた友人の裏切り、両親との意見の相違、受験戦争の空虚さ……スケール感はまことに小さいですが、さまざまな『不条理』に直面していた私にとって、カミュは生きるための武器を与えてくれました。それは、リウーのいう『**誠実さ**』であり、『**職務を果たすこと**』というシンプルな言葉。この頃の私にとって、これらの言葉がどれだけ支えになったことでしょう。」

今、私たちが置かれている状況は、『ペスト』ほどではないかもしれませんが、通常とは違う今の状況を皆さんのこれからの繋げるためにも、「今、このような状況だからできること」を皆さんなりに考えて下さい。その手がかりとなるのが『**G1 パスポート**』です。これについては、宜野湾高校HPで取組方法が紹介されると思うので参考にして下さい。

1・2年生については今の状況を契機に自分の進路・生き方について考えること、**3年生**については新型コロナウイルスに関する小論文や面接も考えられるので今の時期に考えを深めておくことが必要となるでしょう（進路先の情報収集はもちろんのことです）。

私も大学浪人時代にカミュの『シーシュポスの神話』を読んで、勇気づけられたことを思い出しました。当時の私は、自分の「**生きる意味**」について悩んでいた時期でした。この「生きる意味」について、私たちに示唆を与える本が**フランクルの『夜と霧』**です。同書については、次回に紹介します。

宜野湾高等学校長 津留一郎